

日射量予測データの提供を開始します

スーパーコンピュータを活用した「数値予報」により計算された日射量予測データの提供を、本日（12月5日（火））より開始します。

気象庁では、日々の天気予報や警報・注意報、台風情報等の防災気象情報発表のため、その基礎資料となる「数値予報」を行っています。このデータは、民間の気象事業や報道をはじめ、様々な社会経済活動においても幅広く利用されています。

今般、電力分野や農業分野等において、日射量予測データへのニーズがあることを踏まえ、これら分野における生産性の向上に資するよう、本日（12月5日（火））より、数値予報により計算された日射量予測データの提供を開始します（詳細は別紙参照）。

本データは、一般財団法人気象業務支援センター（ 1 ）から入手できます。また、サンプルデータを、気象庁ホームページの「気象データ高度利用ポータルサイト」（ 2 ）より入手できます。

本件は、国土交通省生産性革命プロジェクト「気象ビジネス市場の創出」（ 3 ）に関する取組の一環です。

（ 1 ）気象業務支援センターホームページ

<http://www.jmbasc.or.jp/jp/>

（ 2 ）気象データ高度利用ポータルサイト

<http://www.data.jma.go.jp/developer/index.html>

（ 3 ）国土交通省生産性革命プロジェクト「気象ビジネス市場の創出」

<http://www.data.jma.go.jp/developer/consortium/consortium.pdf>

[本件に関する問い合わせ先]

< 日射量予測データに関すること >

気象庁予報部数値予報課 03 - 3212 - 8341 内線 3316

< 生産性革命プロジェクトに関すること >

気象庁総務部情報利用推進課 03 - 3212 - 8341 内線 2286

日射量予測データについて

日射量予測データは、数値予報モデルである「全球モデル(1)」「メソモデル(2)」及び「局地モデル(3)」それぞれで計算します。データの仕様は以下のとおりです。

	全球モデル	メソモデル	局地モデル
領域	北緯 20 度～50 度、 東経 120 度～150 度	北緯 22.4 度～47.6 度、 東経 120 度～150 度	北緯 22.4 度～47.6 度、 東経 120 度～150 度
分解能	0.2 度×0.25 度	0.05 度×0.0625 度	0.020 度×0.025 度
予報時間 (初期時刻)	84 時間(03 時、09 時、 15 時) 264 時間(21 時)	39 時間(00 時、03 時、 06 時、09 時、12 時、 15 時、18 時、21 時)	9 時間(毎正時)
時間間隔： 提供データ	1 時間(84 時間予報ま で)：前 1 時間平均値 3 時間(87 時間～264 時間予報)：前 3 時間平 均値	1 時間： 前 1 時間平均値	30 分： 前 30 分平均値

以下の図は、各数値予報モデルによる日射量予測の違いを示しています。数値予報モデルにより分解能等が異なるため、予測値も異なる場合があります。

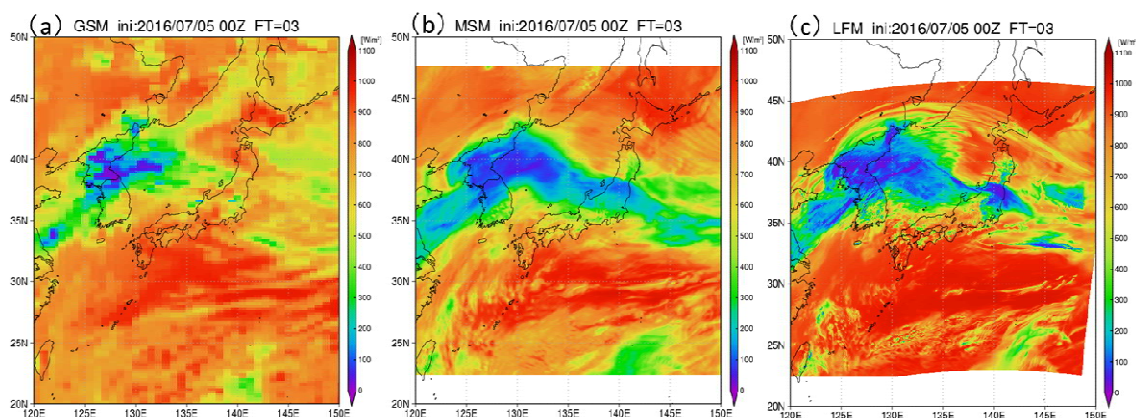


図 平成28年7月5日12時(日本時間)までの日射量予測値の分布

(a) 全球モデルの3時間予測値(前1時間平均値)、(b) メソモデルの3時間予測値(前1時間平均値)、(c) 局地モデルの3時間予測値(前30分平均値)をそれぞれ示す。

- 1 水平分解能約 20km で地球全体を覆い、1日 4 回最大 11 日先までの予測計算を実行。台風や高低気圧等、数日～1 週間先の日本の天候に影響を与える現象を対象とする。
- 2 水平格子間隔 5km で、日本付近を対象に 1日 8 回 39 時間先までの予測計算を実行。1 日先程度までの大雨や暴風等の災害をもたらす現象が予測対象。
- 3 水平格子間隔 2km で、日本付近を対象に 1日 24 回(毎時) 9 時間先までの予測計算を実行。局地的な大雨や飛行場における風の急変等、目先数時間程度の局地的な現象が予測対象。